



# 紫雲児の心

明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、学校では3学期が始まりました。今年度も、残りあとわずかとなり、2カ月後には3年生は卒業しています。一日一日を大切にし、充実させてほしいと願い、1月6日の始業式で全校生徒に次のような話をしました。

## 「恩返し」と「恩送り」

校長 五十嵐 めぐみ

「恩返し」とは、恩を受けた、つまり、お世話になった人にお返しをすることです。3年生は3年間、1・2年生は1年間・2年間の中学校生活、あるいは、生まれてから今までを振り返り、自分が支えてもらい、お世話になった人を思い浮かべてみてください。皆さんが今日まで頑張ってきたのは、もちろん自分の努力の成果なのですが、それだけではなく、支えてくれた人の存在があったからだと思います。人は、一人ではできないことも、誰かに支えてもらったり仲間と一緒にだったりすると頑張れるものです。卒業や進級を前に、これまで自分を支えてくれた人への恩（感謝）を表してみませんか。どんな方法で表すかは自分で考えてほしいのですが、私から提案があります。「恩返し」も良いのですが、「恩送り」も大切にしてください。「恩返し」とは、恩を受けた相手に直接感謝（お返し）することですが、「恩送り」とは、相手に直接ではなく、受けた恩を別の人・次の人に送ることです。

私が中学校の先生になったのは、中学時代の担任の影響だと思います。若い女の先生で、家庭科の先生でした。私は、その先生の授業が大好きでした。3年間担任で、部活動（卓球部）の顧問でもありました。私の中学時代は、その先生なしでは考えられません。悩んだことや辛いこともありましたが、先生はいつも相談に乗り、一緒に悩んでくれました。卒業する時には感謝のメッセージや花を渡しましたが、私にとって、先生から受けた恩は、その程度では返せないほど大きいものでした。気が付くと、いつの間にか私は、中学校の家庭科の先生という、その先生と同じ道を進んでいました。そして、生徒一人一人を大事にする先生になろうと努力してきました。校長になってからも、その気持ちは変わりません。

先生は、もう何年も前に退職され、数年前に県外に嫁いだ娘さんの家に引っ越されたそうです。卒業後もずっと、年賀状は出しています。私が中学校の家庭科の先生になったことを伝えた時には、とても喜んでくださいました。もう会うことはないでしょうが、先生から受けた恩（生徒一人一人を大事にし、悩んだり困ったりした時には一緒にどうすれば良いかを考えること）を、私が中学生の皆さんに対してしていくことや、先生方に伝えていくことが、先生から受けた恩を次の人たちへ送っていくこと（恩送り）になると思っています。

日常生活の中でも、「先輩から優しくしてもらったから自分も後輩に優しくする」ことや、「あいさつしてもらって嬉しかったから、自分からも進んであいさつをする」ことなどは、「恩送り」になります。「恩」がその場で終わることなく、次々と送られていけば、それが伝統になっていきます。紫雲寺中学校の良き伝統である「あいさつ」も、そうやって受け継がれてきたのです。

今年度も残りわずかです。どんな恩を、どんな風に返し、次に送りますか？